

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ヴィストカレッジ金沢駅西口		
○保護者評価実施期間	R6年 10月 6日		～ R6年 10月 31日
○保護者評価有効回答数		81 (回答者数)	57
○従業者評価実施期間	R6年 10月 16日		～ R6年 10月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ライフスキル習得のためのプログラムが個別ワークにおいても集団ワークにおいても充実している。	集団ワーク「くらしのスキル」ではライフスキル全般について取り組んでいる。また、調理実習・SNS・公共交通機関を使った外出のワークを多く実施し、児童の経験を増やす取り組みをしている。個別ワークでも簡単なクッキングや公共共通機関の練習に取り組むことができる。	ライフスキルに関する活動はこれまでに実施したものの以上にたくさんあるため、時代に合わせて児童に必要な活動を取り入れていく。
2	季節のイベントにたくさんの児童が参加している。	イベントは単に楽しむだけでなく、児童同士のコミュニケーションができるように配慮している。当日のスケジュールを視覚提示したり、児童の座席配置を前もって決めておくなど、イベントがスムーズに進むための工夫をしている。	毎回必ずイベントに参加する児童だけでなく、集団が苦手な児童もコミュニケーションの練習の場となるよう、参加の声掛けや、参加しやすい環境に配慮していく。集団ワークの振り返りも引き続き継続していく。
3	支援に関することや、児童情報についての共有がスタッフ間でしっかり行われている。スタッフ同士の協力体制ができています。	日々のワークだけでなく、待合室での様子で気になる点はスタッフ間で共有している。児童対応でスタッフの対応を統一したいことは支援会議で話しあって決めている。	引き続き、児童の様子は丁寧に見ていき、スタッフ間で情報共有していく。支援ミーティングの実施や、必要に応じて保護者からの聞き取りを行い、相談員との連携も密に行っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者からの困りごとをお伺いする機会が少ない。	自力通所の児童が多いため、送迎等で顔を合わせる機会が少ない。困りごとを保護者から発信できる環境設定ができていない。	事業所内相談について、待合室で掲示したり、おたよりを配布するなどの周知を行う。
2	児童同士の交流があるのはいいが、待合室で騒がしい時がある。静かに過ごしたい児童や、対人に課題がある児童にとっては改善が必要と思われる。	集団ワークがある時間の入れ替わりがにぎやかになりすぎてしまう。そもそも声の大きい児童がいる。イヤホンなしで音楽を聴いたり動画を見る児童がいる。	公共の場での声の大きさや、イヤホンの使用に関する視覚提示を行う。にぎやかなのが苦手な児童には、空いているワーク室を提供したり、騒がしくなる時間帯を前もってお伝えする。
3	必要に応じて、学校などの関係機関と連携できることを知らない保護者が多い。	事業所内相談や送迎で顔を合わせた時に困りごとを直接伺った時には、関係機関連携の提案をすることができるが、その存在を知らない人が多い。	必要に応じて関係機関との連携を行っていることを周知していく。